

10/2
五曜

消費税減税は切実「客足まばら」「廃業考える」



観光地・城ヶ島やマシロで知られる神奈川県三浦市。消費税10%と新型コロナウイルスが市民の生活に影響を及ぼしている。三浦市商店街連合会(約200店舗)が消費税の5%への減税を求める請願を準備するなど、消費税減税を求める声が高まっています。

神奈川・三浦

国内有数のマシロ漁港・三浦海を望む三浦市商店街連合会。料理店や鮮魚、青果店などが立ち並ぶなか、9割以上は空き店舗です。平日の観光客はわずか、買い物客もまばらです。

佐藤周一会長(兼商店街連合)は「観光客は徐々に戻ってきていますが、パソナが再開していません。商店街全体

「野党共闘で実現を」の声

では、客足は昨年の3〜4割減です」と話します。

コロナ減収

コロナの影響で、例年50万人近くが訪れるマシロの海水浴場は開かれず、10万人以上が集まる三浦海神祭も中止。花火大会も中止。城ヶ島付近の観光船を運航する三浦海業公社によると、乗客は例年の6〜7割しかいません。

「8〜9月の売り上げは例年の3割減。10月も回復は見込めません」というのは、民宿を営む出口恒(とく)。消費税10%で客足が落ちていたところ、コロナ禍で、学生の合宿需要が落ち込み、団体客も皆無です。

「政府のGotoTottoラバル」キャンペーンに登録

「客足は昨年より4割減です」と話します。

「年内の廃業を考えている」と語る、日本政策金融公庫のコロナ特別融資などで経営を維持しようとしている。

「2年以内の廃業を考えている」と語るのは、のり店を営む男性(82)。消費税10%による消費減に加え、コロナで一時的に売りが5割以上落ち込み、8月も4割減。持続化給付金を店を維持してまわした。友だち同士が集まるような機会が戻らなければ、お茶も売れません」と話します。

昨年、売り上げが1000万円を割り込み、免税業者となり。包材や乾燥材などの仕入れには消費税10%がかかるが、客離れを防ぐため販路を変えています。先が全く見えない。消費税がら



三浦市商店街連合会 会長 佐藤周一

多になれば、また希望がもてるが」

三浦市商店街連合会は昨年5月、消費税10%の中止を求める請願を金融首相(当時)に送りました。いま、首相相に送る5万人の減税を求める請願を準備しています。

岩野匡史代表(前市議会議員)が「三浦はマシロやダイコン、キャベツなどが有名で、観光客にも人気の町です。しかし、消費税10%で売り上げがダウンしているところ、コロナが来て、廃業する店も出ています。地域経済への影響は計りしれません」

減税を求める声は切実です。

自動車修理・販売業の南郷美さん(80)は、車が売れない

商店街連合会が「5%」請願準備



消費税10%と新型コロナウイルスの影響について業者から話を聞く小林直樹市議(左)と神奈川県三浦市(画像一部加工)

うえ、小さな個では修理しない人が増え、8月の売り上げは昨年比で割減。それでも、今年1〜20万円の消費税を納付しなくてはなりません。消費税10%で負担を軽減してほしい」

仏壇・仏具店を営む男性(60)も「仏壇は仕入れが高額なので、10%の消費税負担は思います」

前出の岩野さんは「年内に請願を行い、消費税減税を求めたい」と意気込みを語りま

す。

日本共産党の小林直樹市議は「消費税減税は、党派を超えた市民の要求になっていきます。市民と力を合わせ、国に減税を求める意見書を市議会に可決させるべく、地方から声をあげていきたい」。

三浦市長吉田上は、減税を求める意見書を年内に可決させようと、消費税の5%への減税を求める請願の取り組みなどを進めています。

三浦民商の三浦広治会長(89)水産事業が「言います。消費税減税を実現するには、野党が政権を取らなくてはなりません。消費税減税が野党の共通の旗印になり、つぎの選挙で、総選挙で減税を実現する政治に転換するよう、私たちも全力をあげる」(岩井浩樹)